

4 横浜市高次脳機能障害支援センター運営事業

(1) 運営方針

高次脳機能障害外来を中心に診断・評価を行い、高次脳機能障害の方たちが安心して地域生活を送ることがきるまでの一貫した支援に取り組みます。また、地域生活を支える関係機関への技術援助や家族支援、高次脳機能障害への理解を深めるための市民啓発や広報活動等を推進し、横浜市内の高次脳機能障害者支援の中核施設としての役割を果たします。

(2) 平成 23 年度における重点的な取り組み

- ア 地域における高次脳機能障害者のニーズに応じ、リハセンターのチームとして柔軟な支援を行います。特に、高次脳機能障害外来の効果的な活用を図ります。
- イ 高次脳機能障害を主たるニーズとする外来相談業務体制について再整備を図ります。
- ウ 関係機関へのアウトリーチ機能をさらに拡充し、中途障害者地域活動センターを軸とした関係機関との連携モデルを検討します。
- エ 医療機関や支援機関にとって利用しやすい高次脳機能障害支援センターを目指し、利用ルートの拡充を図ります。

(3) 事業内容

ア 相談支援

当事者、家族、関係機関からの高次脳機能障害にかかわる様々な相談に対応し、障害の診断・評価から地域生活に至るまでの支援をマネジメントします。

イ 支援プログラム

リハセンター各部門と連携して高次脳機能障害の支援プログラムに取り組みます。また、高次脳機能障害の代償手段として考える生活補助用具の開発や生活環境の評価等の課題についても取り組んでいきます。

ウ 地域支援

(ア) 関係機関支援

実際の生活場面や活動場面で生じる様々なニーズに対して専門職を派遣し、具体的な対応を検討することから関係機関を支援します。また、地域の関係機関や施設で行っている高次脳機能障害に関する研修、事例検討会等に、リハセンターから専門職を派遣します。

(イ) 支援システムの構築

高次脳機能障害を多く受け入れている中途障害者地域活動センターを中心に、区福祉保健センター、医療機関等と連携した横浜市における高次脳機能障害支援システムの構築を図ります。

エ 家族支援

ラポールと連携し、家族会を含めたピアサポート体制を整えます。そのために、高次脳機能障害を抱える家族間の理解を深めるための家族セミナー等を企画します。

オ 市民啓発

(ア) 広報活動

高次脳機能障害への理解を深めるためのリーフレット等を作成し、医療機関、行政機関、中途障害者地域活動センター等の地域の支援機関、相談支援を担う事業所等に配付して、広く周知を図ります。

(イ) 研修会

市民・関係機関向けの研修会を企画します。また、関係機関が主催する研修会にも講師派遣を行い、高次脳機能障害への理解を深めます。

カ 情報の収集

関係団体等から発信される情報の収集のみならず、様々な連絡会議等へも積極的に参加し、最新の情報収集に努め、高次脳機能障害支援に役立てます。特に、神奈川県内の取り組みについては情報交換を行い、連携を図ります。